



飯田市 歴研ニュース

News Letter

No. 82

The Iida City Institute
of Historical Research

2016年6月1日 発行

飯田市歴史研究所
〒395-0002
長野県飯田市上郷飯沼3145
TEL 0265-53-4670
FAX 0265-21-1173
E-mail iih@city.iida.nagano.jp



第14回飯田市地域史研究集会

2016年 8月27日(土)・28日(日) 開催

※81号では8月20日(土)・21日(日)と掲載しましたが変更になりました。

内容

27日(土) 9:30~16:30 歴研賞授与式・特集シンポジウム

**28日(日) 9:00~12:00 研究報告・水路と歴史をめぐる
飯田町さんぽ**

会場

飯田市公民館 2階 展示室 (飯田市吾妻町139)

講演・報告

**藤田覚さん (東京大学名誉教授)、竹ノ内雅人さん(東京大学助教)
加藤みゆきさん (前飯田市立中央図書館長) ほか**

飯田藩と地域社会

本研究集会では、「飯田藩と地域社会」、特に飯田藩による政治の展開と課題、飯田・下伊那における学問・教育を重点課題に据えます。飯田藩がその領地をどのように支配し、どのように地域社会と向き合ったのか、そして飯田藩ではどのような学問・教育政策を展開し、その中で地域ではどのように学問や教育が行われたのか、という視点から、飯田藩と地域社会との関係を明らかにしていくことを目指します。

2016年申請 研究助成募集

飯田・下伊那地域の歴史をテーマにした研究活動を助成します。

応募資格

- ・飯田市内または下伊那郡内に住所を有する団体
- ・大学の卒業論文または修士論文を作成するための研究を行う者

研究期間

平成29年2月まで

助成の条件

- ・飯田・下伊那地域の素材を用いたオリジナルな歴史研究の成果であること。
- ・新たに得た史料所在情報については、研究所に提供すること。
- ・研究成果の口頭による発表を所定の時期に研究所で行い、併せて研究所の刊行物を通じて公表することを原則とすること。

助成金額

団体および卒業論文…10万円以内
修士論文…15万円以内

申請手続き

提出書類…研究計画書(所定の用紙は飯田市ホームページからダウンロードできます。)

提出期間…平成28年6月30日(木)まで

審査方法

歴史研究所 研究部が行います。

研究論文等の提出

提出期限…平成29年2月28日(火)

助成金の交付

助成金の交付は、助成の条件等に関して必要な審査を行い、交付することが適当と認められたものについて、平成29年4月までに行います。

市民研究員(課程)募集

飯田・下伊那の地域史研究などを担う研究者を育成するため、ボランティアの市民研究員(課程)を募集します。

主な活動

- ・研究員としての活動期間は2年間
- ・歴史研究所研究員の指導により研究論文を作成
- ・歴史研究所の諸活動に参加

募集人数

若干名

応募方法

研究テーマ・研究計画・志望動機を記入し、歴史研究所に提出してください。(所定の用紙は飯田市ホームページからダウンロードできます。)

募集期間

平成28年6月1日(水)～平成28年7月30日(土)

審査

8月末日までに審査結果をお知らせします。

飯田歴研賞2016候補作品募集

歴史研究所では、飯田・下伊那の地域史研究における優れた作品を発掘するため、「飯田歴研賞2016」の候補作品を募集します。

皆さんの推薦により候補となる作品を選出し、審査後に受賞作品が決まります。自薦他薦は問いません。ぜひ作品を歴史研究所までお送りください。

対象作品

2015年4月～2016年3月に刊行・発表された著書・論文(自費出版を含む)

応募方法

推薦作品を歴史研究所まで持参するか、郵送してください。

応募締切り

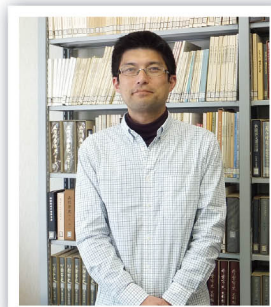
平成28年6月30日(木)

審査・表彰

歴史研究所で審査を行い、平成28年度研究集会で優秀作品を表彰します。

共同研究	基礎調査	A 史料所在状況調査	千葉 拓真	課題研究	A 小学校区を単位とする地域社会の文化構築に関する歴史的研究	多和田 真理子
		B 史料現状記録調査	千葉 拓真		B 山里の分節的把握—阿智村清内路を素材として	吉田 伸之
		C オーラルヒストリー調査	齊藤 俊江		C 近世山里社会の存立条件に関する研究	吉田 ゆり子
		D 歴史的建造物調査	樋口 貴彦		A 飯田・上飯田	多和田 雅保
		E 歴史的公文書調査	羽田 真也		B 座光寺	千葉 拓真
		F 在外史料調査	吉田 伸之			
		G 古代・中世史料収集	北村 安裕			

基礎研究	顧問 研究員	吉田 伸之	「小規模伝統都市・飯田の社会＝空間構造」2
		加藤 陽子	森本州平日記を読む
		田嶋 一	飯田・下伊那の教育・人間形成についての教育社会史的研究
		土生田 純之	伊那谷における渡来系文化の流入と定着
		吉田 ゆり子	飯田市域における中世城館・近世城郭の歴史的研究 下伊那地域における身分的中間層に関する研究 下伊那地域における身分的周縁に関する研究
	研究員	千葉 拓真	近世南信州における領主間ネットワークと地域社会に関する総合的研究
		樋口 貴彦	ランドスケープに適応した多様な暮らし方と建築文化に関する研究
		羽田 真也	飯田・下伊那における村社会の構造と展開
	調査 研究員	原 英章	満蒙開拓青少年義勇軍についての研究 飯田市平和祈念館資料室 所蔵資料の歴史的調査
		齊藤 俊江	下伊那と満洲移民 近代飯田遊廓の形成から廃止の過程の歴史
		本島 和人	満洲視察、教学奉仕隊は地域にどう伝えられたか
		北村 安裕	古代東山道における地域特性の総合的研究
		竹ノ内 雅人	飯田・下伊那地域の寺社と地域社会に関する基礎的研究
		田中 雅孝	近代養蚕地帯における都市と農村
		多和田 雅保	近世・近代の飯田町を中心とするネットワークの研究
多和田 真理子		小学校の設置・運営と地域の関わり	
安岡 健一		日中戦争期の飯田下伊那の社会史的研究	
市民 研究員		橋部 進	「森本」、「胡桃澤」両日記1920～1932年の思想史的な意味
	清水 迪夫	伊那自由大学受講生の社会階層	
	林 武史	飯田の街角の文字デザインと歴史を見つめる	



はだ しんや
羽田 真也 研究員

1974年 兵庫県加古川市生まれ
関西学院大学・博士（歴史学）
専門：地域史（近世～近代初頭）

4月から地域史担当の研究員に着任しました。兵庫県の加古川で生まれ、西宮の大学に通い、結婚後は大阪府の岸和田で暮らし、これまでずっと関西で生活してきましたので、今は飯田の風景、気候、雰囲気、新鮮さと驚きを感じる毎日です。私はこれまで播州や泉州を対象に近世の村社会について研究してきました。また、その中で現在の地域住民と共同で活動することに積極的に取り組んできました。この歴史研究所でも、地域のみなさんと一緒に歴史を調べ、かつて飯田・下伊那に生きた人たちの人生や生活を浮かび上がらせたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



はら ひであき
原 英章 調査研究員

1948年 喬木村生まれ
専門：近現代史

今までの市民研究員から、今度は内部から研究所を支える立場になりました。

生まれ育った飯田下伊那の歴史は、単なる地方の歴史ではなく、深く日本の歴史と結びつき、地域の歴史を調べていくことでその時代が見え、その時代に生きた人々の生き様の中に、今に生きる私たちが学ぶことが数多くあります。

戦後71年を経て、近い将来戦争の体験者がいなくなってしまう時を迎えています。悲惨な戦争体験を記録として伝え残し、次代に引き継ぐことも歴史研究所の大切な仕事だと思っています。小学生からお年寄りまで、多くの皆さんが活用できる研究所をめざしたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。



「家」の歴史

吉田 ゆり子 歴史研究所顧問研究員

下伊那地域には、「壹人百姓」の村と呼ばれる村がありました。一軒の「御館」「大屋」などと呼ばれる家だけが村の「百姓」で、他はすべてその家の「家来」（「被官」）であるという構成をとった村です。そうした村には、むかし人も住まない山林に「家来」ともに入った「御館」が、山林を伐採して開墾して集落を開発していったという伝承が残されています。こうした伝承を自らの「家」の歴史書としてまとめたのが、『熊谷家伝記』です。これを書き遺した熊谷直遇（なおはる）も、信濃国伊那郡坂部村（現、長野県天龍村）の名主を勤めた、「御館」の「家」の当主でした。

直遇は、1750（寛延3）年に「心外の事」があったとして家を出て、江戸に向かい江戸で出替の武家奉公人として3つの武家に勤めました。「心外の事」の詳細は不明ながら、直遇には「武士への憧れ」がとても強くありました。ところが、4年後1754年には武家奉公はやめて帰宅します。その心境について直遇は次のように記しています（『熊谷家伝記』『伊那史料叢書』第19巻、山村書院、1934年、339ページ）。

皆人血気のもは江戸表宜しき事とのみ思えども、江戸という所は、格式よく大給取ほど付合いに入用多く、高給ひとつも身のためならず、さあればとて、人界なれば付合い立引き等にかかわらざれば、侍たるその甲斐なく、某（それがし）文亡の身なれども、前後左右を見るに、貴賤ともに古郷に増したる極楽なし、（中略）、末代のもの、右の趣よくよく推し量り、末子等は格別、家の相続をもすべきものは、必ず必ず他国へ出る事なかれ

つまり、覇気のある人は皆江戸がよい所と思っているが、実際には江戸というところは格式の高い大給取りほど付き合いにお金がかかり、高給はまったく自分の身につかない、とはいえ、人間界であるので付き合いや駆引きに関わらなければ「侍」である甲斐がない、自分は無学ではあるが、周囲をみわたすと貴賤いずれの人にとっても、故郷が最高の極楽である、という。憧れの武士の世界に失望し、故郷が極楽であることを発見して帰宅したのです。同時に、「家」を相続する者は決して他国に出るな、と説く直遇は、「家」を継承する嫡男としての自覚に目覚めることになりました。こうして執筆されたのが、『熊谷家伝記』だったので

『熊谷家伝記』は、これまで旧富山村佐藤家に伝わるものが出版されていましたが、和合の宮下家に伝わるものが佐藤家の元になっています。この宮下本『熊谷家伝記』の翻刻版を飯田市歴史研究所の史料叢書として出版してゆきます。

歴研 Q & A

Q 江戸時代の人たちはどこへ旅をしたの？

A 江戸時代には、各街道の要所に関所と呼ばれる、いわばチェックポイントが置かれ、関所などを通過する際には関所通手形など、幕府や藩が発行する許可証が（特に女性などの場合）必要でした。こうした制限などがあったものの、江戸時代の人びとは様々な目的で、様々な場所へ旅行に出かけました。例えば学問をおさめるために京都や長崎、江戸などへ行くこともあれば、伊勢神宮へ参拝するため、あるいは善光寺へ参詣するなど、信仰にかかわる目的で旅をすることもありました。ほかにも観光や商業など旅の目的は多様でした。

そうした中で多くの人びとが目指したのが、幕府の中心地である江戸です。大名やその家臣たちは参勤交代や藩の仕事などで、学問や芸術などを志す人びとはその修行のために、そのほかにも商業や観光、就職など、様々な目的で人びとは江戸を訪れました。そうした人びとのために、江戸の案内書や携帯可能な切絵図なども出版されていました。飯田から江戸へ行く場合、高遠を通過して峠を越え、甲州街道から江戸へ向かうルートが一般的だったようです。幕末の飯田藩主堀親義も、参勤交代の時は飯田城を出発して高遠へ向かい、そこから金沢峠を越えて甲州街道へ入って江戸を目指したことがわかっています。

このほかにも京都や大坂はじめ、各地の城下町や宿場町などでは、実に多くの人びとが行き交いました。江戸時代にも、人びとは様々な理由で全国各地を旅したのです。（千葉研究員）



阿智村清内路関所跡

飯田アカデミア2016 第77講座

ちかしげ

堀親審・後藤三右衛門と天保期の幕政

6月25日 土

第1講 13:30~15:00 「大御所時代の政治」

第2講 15:20~16:50 「アヘン戦争の衝撃」

6月26日 日

第3講 10:00~11:30 「対外的危機と天保の改革」

第4講 13:00~14:30 「天保の改革の失敗」

講師 藤田 覚さん (東京大学名誉教授)

会場 上郷公民館202会議室
(飯田市上郷飯沼3092-9)

受講料 500円 (2日間共通資料代)

19世紀の半ば近くにおこなわれた、江戸幕府三大改革の一つとされる天保の改革という政治改革を中心に上げます。この時期の財政問題と密接に関わる貨幣改鋳を担ったのが、飯田生まれの金座お金改め役後藤三右衛門です。また、天保の改革を主導した老中水野忠邦の片腕として幕政を担ったのが、飯田藩主で側用人(のちに老中)堀親審です。幕府政治に重要な役割を果たしましたが、後に後藤は死罪、堀は加増のうち3000石没収の処罰を受けました。この飯田に縁の深い二人に焦点をあて、19世紀前半から半ば近くにかけての幕府政治を講義します。

※1日のみ、または1講義のみでもご参加いただけます。
※受講をご希望の方は歴史研究所までお申し込みください。
当日参加も可能です。

定例研究会

「商都飯田と遊廓をめぐる社会」

明治初期に設置された飯田遊廓は、花街として観光にも利用され、多くの問題をうみました。当時の史料からその実態を分析します。

開催日: 7月23日 土

報告者: 齊藤 俊江 (調査研究員)

時間: 14:00~16:00

場所: 飯田市歴史研究所 研修室

※定例研究会はすべて公開で行っています。どなたでもご参加いただけます。

出前講座

「古文書から読みとく江戸時代の災害 -信濃国、特に南信地域を中心に-」

近年、日本各地で地震をはじめとした災害が相次いでいます。映像や写真が普及した後の時代の災害については、それを見れば被害の様子や復興の過程がわかりますが、それ以前の時代の災害について学ぶには、先人たちが残してくれた古文書を読み解くことが必要になってきます。本講座では古文書に記された内容を読み解くことを通して、過去の災害について学んでいきたいと思えます。

6月13日(月) 16:00~17:00

報告者: 千葉 拓真 (研究員)

会場: 中部地域づくり協会長野支所
(駒ヶ根市上穂北14-11)

主催: 長野県砂防ボランティア協会南信支部

※詳細については飯田市歴史研究所までお問い合わせください。

歴研ゼミ 6月7月の予定

受講生募集!!

スタッフとともに
歴史を学んでみませんか。

場所: 歴史研究所 研修室

近世史ゼミ 担当: 千葉拓真 (研究員)

6月7日・21日 / 7月5日・19日 (第1・第3火曜日)

19:00~20:40

近現代史ゼミ 担当: 田中雅孝 (調査研究員)

6月11日 / 7月9日・23日 (第2・第4土曜日)

13:30~15:00

※7月23日は定例研究会と合同で開催します。

思想史ワークショップ 市民の皆さんが 自主的に学び合う場

6月1日・15日 / 7月6日・20日 (第1・第3水曜日)

19:00~20:40

New わが町の建築史ゼミ 担当: 樋口貴彦 (研究員)

初回ガイダンス 6月30日 (木) 18:30~

以降 毎月第3木曜日 18:30~20:00

※参加をご希望の方は事前に歴史研究所までお申込み下さい。

満洲移民研究ゼミ 担当: 本島和人 (調査研究員)

第60回 6月4日 / 第61回 7月2日 (第1土曜日)

10:00~11:40

ゼミ・ワークショップの詳細・お申込みについては、
歴史研究所までお問い合わせください。

TEL: 0265-53-4670



開所時間: 午前9時~午後5時

休所日: 日曜日・月曜日・祝日・12月29日~1月3日